

日本の民間企業とアフリカの大学の連携構築パイロット ～技術連携によるオンライン製品開発及び市場開拓～

日本政府の支援を受け、世界銀行と一般社団法人コペルニク・ジャパンは「日本の民間企業とアフリカの大学連携構築パイロット～技術連携によるオンライン製品開発及び市場開拓」のキックオフイベント(説明会)を2021年4月8日(木)に開催します。

本パイロットでは、アフリカの大学との連携を通してアフリカ市場開拓にご関心をお持ちの日本の企業を支援します。コロナ禍の中で、国外での市場調査や製品開発が困難になる中、アフリカの70以上の大学・研究機関とそこに拠点を置くインキュベーションセンターを支援している世界銀行のプロジェクトであるPASET*のRSIF**やACE***と連携をしながら、コペルニクの途上国でのビジネス開発の実績を踏まえ、現地のニーズや簡易調査、製品テストを行い、日本企業とアフリカの大学の技術連携構築による新規ビジネスの創出および日本企業のアフリカ市場開拓を促進します。

本パイロットでは、アフリカでの事業展開および関係構築にご関心のある日本の企業を対象に、現地のビジネスパートナーとなるPASETやACEに加盟している大学とのマッチング、現地での課題を詳細に理解するためのワークショップ、実際に製品やサービスを現地で活用するプロトタイプ調査を通して、アフリカでのビジネス展開を後押しします。

今回のキックオフイベントでは、アフリカでのビジネス機会を模索している日本の民間企業の皆様を対象に、本パイロットの目的や手法についてご説明します。また、パネルディスカッションでは、アフリカにおける課題、日本企業がアフリカの市場に参入するためのステップや障壁、現地のパートナーとの連携構築の重要性について議論を行います。

ぜひ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

*PASET (Partnership for skills in Applied Sciences, Engineering and Technology): アフリカの技術者や科学技術研究者等を対象に、応用科学、工学と技術分野における人材育成を目的とした職業訓練レベルから高等教育、研究、研究実装に関わるプログラム。

**RSIF (Regional Scholarship and Innovation Fund): 政府やドナーからの資金により基金を立ち上げ、応用科学技術系博士課程奨学金、研究費、研究実装費を提供。さらに、最大10校のアフリカの大学が海外大学や研究機関、企業とパートナーシップを築きつつ、教育及び研究の質向上を目指すプロジェクト。

***ACE (Africa Centers of Excellence): アフリカの高等教育機関における理数科教育と研究の強化を目的としたプロジェクト。サブサハラ・アフリカの19カ国、51大学にある70以上の研究拠点に投資。

【概要】

- 日時: 2021年4月8日(木) 19:00~20:30
- 場所: オンライン
- 主催: 一般社団法人コペルニク・ジャパン
- 共催: 世界銀行
- 参加費: 無料
- 参加お申込み: <https://forms.gle/hXhbNjqQqfsZyLW9>
- プログラム:
- | | |
|---------------|--|
| 19:00 - 19:05 | 開会の挨拶 世界銀行駐日特別代表 宮崎成人(敬称略) |
| 19:05 - 19:30 | コペルニク及び本プロジェクトの紹介
・コペルニクの紹介
・支援プロジェクトの紹介 |
| 19:30 - 20:15 | パネルディスカッション(敬称略)
「アフリカの社会課題に日本の企業がどのように取り組めるか」
株式会社 シュークルキューブジャポン 代表取締役社長 佐藤弘一
日本植物燃料株式会社 代表取締役 合田 真
世界銀行 教育グローバルプラクティス教育専門官 今泉沙織
ファシリテーター コペルニク共同創設者兼 CEO 中村俊裕 |
| 20:15 - 20:30 | 質疑応答 |
- 使用言語: 日本語

登壇者紹介(敬称略)



宮崎 成人 (みやざき まさと)

世界銀行駐日特別代表

2017年8月より現職。1984年に大蔵省(当時)に入省以来、国内分野(予算編成、経済分析等)と国際分野(国際通貨制度、債務危機対応等)の双方で経歴を積み重ねる一方、これまで3回の国際機関勤務を経験。1991~1995年、冷戦終結後に旧ソ連・東欧圏諸国の市場経済移行を支援するための欧州復興開発銀行(EBRD)の立ち上げ業務に日本理事室の審議役として従事。2000~2003年、アジア危機を受けて設立された金融安定化フォーラム(現在の金融安定理事会)の事務局員として、国際決済銀行(BIS)に勤務。2008~2016年、国際通貨基金(IMF)においてバングラデシュやベトナムのミッション・チーフを4年間務めた後、約30か国について担当チームの行う経済分析と政策アドバイスの適切性を審査する業務に4年間従事。

IMFからの帰国後、駐日特別代表就任までの1年間は財務省で副財務官として主に二国間関係を担当するとともに、東京大学客員教授として国際金融の講義を担当。

東京大学法学部卒業(1984年)及びオックスフォード大学国際関係論修士号取得(1988年)



今泉 沙織(いまいずみ さおり)

世界銀行教育グローバルプラクティス教育専門官

2010年より世界銀行にて南アジア地域の教育セクター、情報通信技術(現デジタルディベロップメント)セクターで勤務後、2016年より東南アフリカ地域の教育グローバルプラクティスにてアフリカ地域の高等教育、科学技術イノベーション、基礎教育、デジタルスキル、産学および大学間連携、テクノロジーと教育・雇用に関するプロジェクトや調査に取り組む。世界銀行入行前はアクセンチュアにて勤務。米国ウエズリアン大学政治学部卒業および米国タフツ大学フレッチャースクールにて開発経済と国際ビジネス修士号取得。



佐藤 弘一(さとう こういち)

国際起業家

SUCRECUBE Technologies (France) 社長

株式会社 シュークルキューブジャパン代表取締役社長

TUMIQUI Japon SASU (Senegal) 社長

在フランス歴22年、元NTTヨーロッパで国際ICTを担当しその後フランスにて起業。仏語圏アフリカへ仕事で訪れ、地方村落の通信の遅さと電気の無い社会を知り、仏語圏でのICT経験を活かした貢献が出来ないか検討を始める。日本としてアフリカに貢献したいと考え2018年に日本法人「株式会社シュークルキューブジャパン」を設立。アフリカの地方村落に通信と電気を届けるTUMIQUI(ツミキ)プロジェクトの最初のステップとしてポータブル太陽光発電&通信機能を搭載可能なTUMIQUI Smart Kitを開発。セネガル保健省とMOU締結し未電化村落の診療所10箇所に導入。その実績から経済特区サンジャラ市とスマートシティ計画参画のMOUを締結。2020年1月に同市に100%子会社「TUMIQUI Japon SASU」を設立しアフリカ進出を果たす。

セネガル及び西アフリカ一帯の商圏を見据え、現地の雇用促進、技術移転を行いMade in Africa with Japanとして現地組立保守を開始した。

2020年第3回 日経ソーシャルビジネスコンテスト優秀賞受賞企業。



合田 真(ごうだ まこと)

日本植物燃料株式会社 代表取締役

2000年に日本植物燃料株式会社を創業し、バイオ燃料・農業・電子マネーなどを柱とし2006年よりモザンビークを中心にアフリカでの事業を行っている。TICAD7では、アフリカビジネス協議会農業WGとしてAgriculture Innovation Platform for Africa(AIPA)を提案し、日本の農協コンセプトをデジタル化した総合農村開発に取り組んでいる。



中村 俊裕(なかむら としひろ)

コペルニク共同創設者兼CEO

途上国の課題をより革新的、効果的に解決するため、2010年コペルニクを共同創設。それ以前は、国連に勤務し、東ティモール、インドネシア、シエラレオネ、ニューヨークを拠点としてガバナンス改革、平和構築、モニタリング・評価、自然災害後の復興などに従事。マッキンゼー東京支社で経営コンサルタントも務めた。京都大学法学部卒業、英国ロンドン経済政治学院で比較政治学修士号取得。現在大阪大学COデザインセンター招へい教授も兼務。

注) 登壇者につき、一部変更になりました。